

県立並木高等学校自己評価表

| | | | |
|---|---|---|------|
| 目指す学校像 | 1 「つくば」とともに、「つくば」が持つ使命（ミッション）を共有した、未来を切り拓く人材を育成する学校 2 生徒一人ひとりを大切にするとともに、地域に信頼され、生徒に力（「社会力」「学力」「体力」）と夢を提供する学校 3 中等教育学校への移行がスムーズに進む学校 | | |
| 昨年度の成果と課題 | 重点項目 | 重点目標 | 達成状況 |
| 目指す学校像の具現化のため、開校した県立並木中等教育学校と連携し、「つくば」の持つミッションを共有し、過去のトレンドに拘ることなく、邁進した。特に生徒一人ひとりを大切にすることを実践し、地域に信頼された結果、入試の倍率も例年通りの高倍率を維持した。今後は、更に中等教育学校への移行がスムーズに進むよう、連携のためのチームを立ち上げ、具現化する必要がある。 | 1 意欲ある学校風土の醸成 | ① 人間として恥じることのない、知識を操作するための、人間力を培う教育 ② チャイムからチャイムまでの授業とシラバスを使った効果的な学習 ③ 教職員の意識改革 ア 過去のトレンドの払拭 イ 地域との連携 | |
| | 2 進路希望の実現、特に将来の夢を語る生徒の育成 | ① 個人面談の重視と進学ガイダンスの充実 ② 多様な進路情報の提供（たとえば、学校・学年発行のメールマガジンの充実） ③ 職業観・勤労観の育成 | |
| | 3 すこやかな心と体の育成 | ① 基本的な生活習慣の確立 ② 生徒会活動・学校行事等への一般生徒の参加意識を高揚 ③ 安全教育の推進（たとえば、自己防衛意識と自己管理能力を高める指導） | |
| | 4 中等教育学校へのスムーズな移行、特に未来のトレンドを読む力の育成 | ① 全職員の共通理解と校内体制の充実 ② 広報活動の充実 ③ 小学生とその保護者等への説明会の実施 | |

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 次年度(学期)への主な課題 |
|---|--|--|----|---------------|
| 教務部 | 「つくば」がもつ使命（ミッション）を全職員が共有し、さらなる生徒の学力向上をめざす。 | 生徒にわかりやすい（徹底しやすい）シラバスを作り、シラバスを参考にした学習計画の立案を促すことで、生徒の自主的な学習態度を育成する。 | | |
| | | 50分授業の展開を再構築し、多様化した生徒に対応した授業（分かる授業・参加する授業・楽しい授業・実力がつく授業）の工夫改善を図る。 | | |
| | | 公開授業の奨励、積極的な職員研修（先進校視察等）、情報の交換・共有化を促す。 | | |
| | 授業時間の確保と教務情報の提供に努める。 | 各教科間や、学年内の連携を強化し、授業交換を徹底させ、補填授業を充実させる。 | | |
| | | チャイムからチャイムまでの授業の徹底を図る。 | | |
| | | インターラクティブボード（情報表示装置）を有効に利用し教務情報を提供する。 | | |
| 中等教育学校完成への移行期間3年目という事実を踏まえ、校内体制の見直しを図る。 | 生徒や評議員の意見を取り入れた学校評価システムを確立させる。 | | | |
| | 各部・各教科・各学年の連携強化に努める。 中等教育学校との連携を強化し、移行がスムーズに推進するように校内体制の見直しを図る。 | | | |

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 次年度(学期)への主な課題 |
|------------|--|---------------------------------------|----|---------------|
| 2 企画部 | 中等教育学校へのスムーズな移行と、中等教育学校のより良い運営に関する企画・立案・実践などのとりまとめをする。 | 本校の将来構想の研究 | | |
| | | 科学教育に関することの充実 | | |
| | | 国際理解教育に関することの充実 | | |
| | | 学校内外における交流の活性化と、人的資源の開発 | | |
| | | 難関大学受験を見据え、中等教育学校の受験指導力の向上をはかる。 | | |
| 3 生徒指導部 | 基本的な生活習慣を育成し、他人との協調性を養い自己実現を目指す。 | 全職員の共通指導 | | |
| | | 自主的に、挨拶をする・服装を正す・時間を守る、が出来るようにする。 | | |
| | | マナーアップ活動を通して、校則を遵守する態度の育成 | | |
| | 保護者・関係諸機関との連携を密にし、問題行動の未然防止を目指す。 | 保護者との連携・協力 | | |
| | | 中学校・警察等の関係諸機関との連携・協力 | | |
| | | 生徒事故の未然防止 | | |
| | 安全教育の推進を図り、自己防衛意識・自己管理の育成を目指す。 | 登下校時の立哨指導・巡回指導の実施 | | |
| | | 交通安全教育の徹底 | | |
| | | 自転車点検の実施 | | |
| | 中等教育学校としての校則の見直しを図る。 | 中等教育学校における前期課程、後期課程に見合った生徒指導の内規を検討する。 | | |
| 3 特別活動部 | 部活動の活発化 | 中等教育学校の生徒も含めた部活動の活動方法を、前年度に引き続き模索する。 | | |
| | | 部活動における効率的な活動を推進し、個の育成と集団のレベルアップを図る。 | | |
| | | 部顧問の適切な配置を考え、学校全体としての指導体制をより充実させる。 | | |
| | 主体性のある生徒会活動の推進 | 生徒会役員が、主体性を持って生徒会活動を進められるようにする。 | | |
| | | 中等教育学校の生徒も含めた生徒会活動のあり方を、前年度に引き続き模索する。 | | |
| | | 生徒会役員選挙に多くの候補者が立候補するよう、生徒の意識を高揚させる。 | | |
| | 学校行事の活性化 | かえで祭の実行委員を増やし、生徒による企画・運営力の向上をめざす。 | | |
| | | 中等教育学校と高等学校が一体化したかえで祭を作り出す。 | | |
| | | 中等教育学校と高等学校の同日開催となるスポーツデーを成功に導く。 | | |

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 次年度(学期)への主な課題 |
|------------|---------------------------|------------------------------------|----|---------------|
| 5 進路指導部 | 適切な進路情報を提供し 進路意識の高揚を図る | 進路室の整備と利用促進 | | |
| | | 進学要覧の活用（HRでの使用と保護者への進路情報の提供） | | |
| | | 保護者面談時等を利用し、定期的な進路情報の提供 | | |
| | 進路計画の作成 | LHRを活用した進路指導（各学年での到達目標を設定する） | | |
| | | 進路・生活実態調査を定期的に行い、生徒のその時点での状況を提供する | | |
| | | 進路希望状況を適宜把握し、円滑に学年指導が進むよう情報を提供する | | |
| | 自己実現のための支援 | 早期に目標を見つけることが出来るように、進路ガイダンス等の充実を図る | | |
| | | 模試の情報収集と結果の活用 | | |
| | | 学年との協力体制の確立 | | |
| 6 保健部 | 生徒の健康・安全・健康 教育の推進に努める | 健康診断は校医と相談し、合理的且つ円滑に行う | | |
| | | 健康診断の結果、要治療者については早期治療を徹底する | | |
| | | 日常的な保健室利用生徒について、担任・保護者との緊密な連携をはかる | | |
| | | 校内の各組織と相談・連携し、性・薬物等の講話を年1回は実施する | | |
| | | 担任・教育相談室と連携を深め、心のケアを重視する | | |
| | | 委員会活動の活性化を図る | | |
| | 校舎内の美化と安全に努 める | 清掃時間には可能な限り先生方に監督についてもらう | | |
| | | ワックスがけを年2回実施する | | |
| | | 危険箇所の点検を行ない、改善に努力する 避難訓練を実施する | | |
| 7 図書部 | 1 図書委員会の活発化 | バーコードによる貸出・返却のスムーズな運営 | | |
| | | 広報内容（「図書館報」等）の充実 | | |
| | | 定例役員会の開催（活動方針の検討） | | |
| | 2 図書館運営と図書の管 理 | 選書作業の組織化と登録・配架作業の円滑化 | | |
| | | 定期的な蔵書点検と除籍作業の推進 | | |
| | | 快適な環境づくりのための図書館設備の充実 | | |

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 次年度(学期)への主な課題 |
|----------------------------|---------------------------|------------------------------|----|---------------|
| 8 渉外部 | P T A 活動の共通理解と 会員同士の親睦 | P T A 本部役員会の開催 | | |
| | | 学年委員会・広報委員会・研修委員会・生徒指導委員会の開催 | | |
| | | かえで祭・WRへの参加協力の呼びかけ。 | | |
| | | 広報誌の発行。 | | |
| | | 支部会の開催。 | | |
| 9 教育情報部 | 授業におけるIT活用 | 定期的な校内研修会の実施 | | |
| | | 環境の整備（普通教室、特別教室） | | |
| | | 教科「情報」と他教科の連携 | | |
| | IT環境を活用した校務の 効率化 | IT活用のための機器の導入と利用普及 | | |
| | | 校内サーバーの活用およびデータの共有 | | |
| | | 教育情報ネットワークの活用促進 | | |
| | | 成績管理システムの改善 | | |
| | IT及び視聴覚環境の整備 | ハードウェアの整備 | | |
| | | 校内ネットワーク（LAN）の整備 | | |
| | | ソフトウェアの整備 | | |
| | | PC室ならびに視聴覚室の整備（視聴覚機器など） | | |
| | IT環境の安全な運用 | ネットワークの安定的な運用 | | |
| | | セキュリティの向上と迅速な対応 | | |
| | | 個人情報保護 | | |
| | | 情報倫理の確立 | | |
| ITを活用した地域や保護 者への広報活動の充実 | インターネット・ブログでの学校紹介の充実 | | | |
| | メールマガジンを活用した保護者への広報活動 | | | |

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 次年度(学期)への主な課題 |
|-------------------|--------------------------------|------------------------------------|----|---------------|
| 10 教育相談部 | 心の問題を抱えている生徒の早期発見と早期対応 | 欠席調べをして休みがちな生徒を把握する。 | | |
| | | 週に1度の部会を持ち、情報交換を密にし、チーム支援の充実を図る。 | | |
| | | 校内研修会を実施し、不登校マニュアルや相談室便りを発行する。 | | |
| | 学年・保護者との連携強化 | 相談部の中に学年担当を決め、学年会の生徒動向の情報を共有する。 | | |
| | | 生徒へのアプローチについて教育相談的視点からのアドバイスをする。 | | |
| | | 保護者との連携を密にする。また場合によっては医療機関等の紹介をする。 | | |
| スクールカウンセラー（SC）の活用 | カウンセリングを受ける生徒に対して学校生活の中で支援する。 | | | |
| | カウンセリングにおいて、SCと担任等間の連絡調整を支援する。 | | | |
| 11 事務部 | 適正な予算の執行に努める | 将来を見通した教育環境の整備充実に努める。 | | |
| | | 安全性を考慮した校舎内外の整備に努める。 | | |
| | | 最小費用で最大の効果を目指した予算執行に努める。 | | |
| | | 団体費については、目的にあった予算執行に心がける。 | | |
| | 施設設備の管理保全に努める | 生徒が安全に教育を受けられるよう、日常の点検を怠らない。 | | |
| | | 施設設備の破損や危険箇所が発見された場合は、早急に対処する。 | | |
| 窓口や電話の迅速な対応に努める | 窓口業務については、親切丁寧な対応に心がける。 | | | |
| | 電話の取り次ぎは、迅速に行う。 | | | |

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 次年度(学期)への主な課題 |
|----------------|--|-------------------------------------|----|---------------|
| 12 第1学年 | 高校生として規律のある基本的生活習慣の育成(生活指導)⇒学校生活の基本である基本的生活習慣を早く確立させ、校訓の精神である自制・自律・自尊の精神を身につけた生徒を育成する。 | 教員と生徒が信頼関係を築き、生徒が学校に登校したくなる雰囲気作りの徹底 | | |
| | | 遅刻カードの導入と家庭との連携を図った事後指導の徹底による遅刻の削減 | | |
| | | 清掃を徹底させ、自分たちで学校生活の環境を整備させる | | |
| | | 朝の立哨指導により、挨拶・服装指導・頭髪指導の徹底を図る | | |
| | | 生徒の状況を観察するために面談の実施による問題行動の早期発見 | | |
| | | 学年集会・道徳などを通じて並木高校生としてのプライドを持たせる | | |
| | | 定期的に学年だよりを発行することによって生徒指導の一助とする | | |
| | 家庭学習の習慣化と基礎学力の向上(学習指導)⇒日々の授業を大切に、日々の家庭学習の習慣を身につけた生徒を育成する。 | 家庭学習記録表を提出させることによる家庭学習の習慣化を図る | | |
| | | 週末課題を提出させることによる家庭学習の習慣化を図る | | |
| | | 定期テスト前SST実施による基礎学力の養成 | | |
| | | 土曜学習会の活用による授業時間の確保と学力向上 | | |
| | | 課外や到達度テスト実施による学力の向上を目指す | | |
| | | 小論文の有効な指導計画を実施する | | |
| | 生徒が自ら考え、選択できるような進路指導の実現(進路指導)⇒自分の生き方や職業選択を考えさせ、生徒一人一人がそれぞれ適した進路選択ができるように導いていく。 | 英国数の基本を徹底させ、応用力の養成を図る | | |
| | | 自分史や適性検査の実施による自己理解の促進 | | |
| | | 進路講演会等による進路意識の覚醒 | | |
| | | オープンキャンパスへの参加・大学見学会等による進路意識の高揚 | | |
| | | マイフューチャーの実施による社会観・職業観の育成 | | |
| | | 面談等を活用して生徒の適切な文理選択をサポートする | | |
| | その他 豊かな心を育成し、人格の向上を目指す。 | 定期的に学年だよりを発行することによって進路指導の一助とする | | |
| | | 部活動への参加の推進 | | |
| 生徒会活動への参加の推進 | | | | |
| 学校行事への積極的参加を促進 | | | | |
| | 普段の学校生活や道徳の授業、校外学習を通して多くの体験をさせる | | | |

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 次年度(学期)への主な課題 |
|--|--|-------------------------------------|----|---------------|
| 13 第2学年 | 個々の個性を伸ばさせ、並木高校生としての自信とプライドをもてる生徒を育てる(生徒指導)⇒校訓の精神である自制・自律・自尊の実践 | 教員と生徒が信頼関係を築き、生徒が学校に登校したくなる雰囲気作りの徹底 | | |
| | | 遅刻カードの導入と家庭との連携を図った事後指導の徹底による遅刻の削減 | | |
| | | 清掃を徹底させ、自分たちで学校生活の環境を整備させる | | |
| | | 朝の立哨指導により、挨拶・服装指導・頭髪指導の徹底を図る | | |
| | | 生徒の状況を観察するために面談の実施による問題行動の早期発見 | | |
| | | 学年集会などを通じて並木高校生としてのプライドを持たせる | | |
| | | 中等教育学校と連携した協力体制を確立する | | |
| | 「総合的な学力」と「社会力」「体力」をバランスよく身につけた生徒を育てる(学習指導)⇒日々の授業を大切に、日々の家庭学習の習慣を身につけた生徒を育てる。 | 家庭学習記録表を提出させることによる家庭学習の習慣化を図る | | |
| | | 週末課題を提出させることによる家庭学習の習慣化を図る | | |
| | | 定期テスト前スタディーチェック実施による基礎学力の養成 | | |
| | | 土曜学習会の活用による授業時間の確保と学力向上 | | |
| | | 課外や到達度テスト実施による学力の向上を目指す | | |
| | | 小論文の有効な指導計画を実施する | | |
| 自分自身を理解した上で、目標に向かって努力をすると同時に、自らの進路についての確かな選択ができる生徒を育てる(進路指導)⇒自分の目標を持ち、自分の長所を理解することで、将来への夢に向かって突き進む | 英国数の基本を徹底させ、応用力の養成を図る | | | |
| | 大学模擬講座を通して、様々な分野への興味関心を持たせる | | | |
| | 進路講演会等による進路意識の覚醒 | | | |
| | オープンキャンパスへの参加・大学見学会等による進路意識の高揚 | | | |
| | マイフィーチャーの実施による社会観・職業観の育成 | | | |
| 修学旅行を通じて生徒に様々な体験をさせ、社会力を植え付けさせる⇒修学旅行を大いに活用し、高校生活の充実を図る | 面談等を活用して生徒の適切な文理選択をサポートする | | | |
| | 定期的に学年だよりを発行することによって進路指導の一助とする | | | |
| | | | | |
| 修学旅行を通じて生徒に様々な体験をさせ、社会力を植え付けさせる⇒修学旅行を大いに活用し、高校生活の充実を図る | 修学旅行を通じて集団生活、仲間の大切さを学ぶ。 | | | |
| | 修学旅行に関する事前指導と関連学習(平和学習)を充実させる | | | |
| | 修学旅行に関する学習(平和学習)や研究発表を通じて自ら学ぶ姿勢の育成を図る | | | |

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 次年度(学期)への主な課題 |
|--|--|--|----|---------------|
| 第3 学年 | 個性を伸張させ、並木高校生としての自信とプライドをもてる生徒を育てる(生活指導) ⇒校訓にもある「自制(自分勝手な気持ちを抑えること)・自律(自分に厳しくあること)・自尊(自分にプライドを持つこと)」の精神を身につけると同時に部活動や各行事等においても、後輩の模範となる存在を目指させる | 教員と生徒間・教員間・学校と家庭などのコミュニケーションの充実を図り、教員と生徒が信頼関係を築いた上で生徒が登校したくなる雰囲気づくりを図る | | |
| | | 遅刻カードの導入による家庭との連携を図った指導の徹底による遅刻と欠席の減少の継続 | | |
| | | 挨拶の励行、服装指導の徹底、問題行動の早期発見 | | |
| | | 個別面談の重視と学年面談の実施などによる生徒状況の把握を推進する | | |
| | | 部活・行事などへ積極的に参加させると同時に学年を牽引するリーダーの養成 | | |
| | | 中等教育学校と連携した教育活動に対する協力体制の確立 | | |
| | 「総合的な学力」と、「社会力」「体力」をバランスよく身につけた生徒を育てる(学習指導)⇒授業や学校生活を通じて「総合的な学力」と、「社会力」「体力」をバランスよく身につけさせ、できるだけ多くの生徒が進路実現の可能性を広げられるような学力をしっかりと身につけさせる | 最重要である普通の授業の充実を図り、わかる授業を展開する | | |
| | | 学習記録表の活用などによる受験生として十分な家庭学習時間の確保を目指す | | |
| | | 通常課外と長期休業中の課外を充実させ、生徒の学力向上を図る | | |
| | | ブライツホールの利用などを推進し、生徒の自学自習の習慣化をサポートする | | |
| | | 各種対策講座・土曜講座や数学到達度テストの活用により学力の向上を目指す | | |
| | | 小論文指導や講座を積極的に実施することで小論文指導の充実を図る | | |
| 自分自身を理解した上で、目標に向かって努力をすると同時に、自らの進路についての確かな選択ができる生徒を育てる(進路指導)⇒自分の目標を持ち、自分の長所を理解することで、将来の自分の進路についてより積極的に考え、的確な進路選択ができる生徒を育てる | 担任だけでなく学年教員全体で、生徒の進路選択をサポートする | | | |
| | 生徒や保護者向け進路講演会等による進路意識の覚醒を図る | | | |
| | オープンキャンパス・各種体験講座・学年集会による進路意識の高揚を図る | | | |
| | 学年メルマガを充実させ、保護者に適切な進路や学年情報の提供を目指す | | | |
| | 志望理由書の充実を図り、推薦入試等の際に有効活用させると同時に、生徒の進路実現に対するモチベーションの向上を目指す | | | |
| | 生徒の適切な進路選択をサポートするために面談等の活用・充実を図る | | | |

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 次年度(学期)への主な課題 |
|---|--|--|----|---------------|
| 15 国語科 | 自発的な学習習慣の定着 | 学習ガイダンスを重視し、予習・復習の仕方・週末課題について細かに指導する | | |
| | | シラバスにより単元目標を提示し、それに合わせた授業・評価の工夫をする | | |
| | | 生徒が学習しやすいように問題演習の行い方を工夫する | | |
| | 読解指導の深化 | 小説・評論の読解法について解説し、実際に使えるようにする | | |
| | | 古文の読解のポイントについて解説し、授業で実践する | | |
| | 記述入試対応 | 設問に応じた答え方ができるよう、板上添削など授業の工夫をする | | |
| 記述対策を早期に開始し、生徒の苦手意識を解消する | | | | |
| 教員間の意見交換を積極的に 行う場の確保 | 授業公開などを利用して、お互いの授業の改善を図る。 | | | |
| | 授業担当者間において、綿密な打ち合わせができるように意見交換の場を確保する。 | | | |
| 16 地歴公 民科 | シラバスの有効利用 | 年間目標を提示し、生徒自らが学習計画を立てられるように手助けする。 | | |
| | | さまざまな学習方法を提示し、生徒が自分あった方法を選択できるように導いていく。 | | |
| | 教員の授業公開の推進 | 授業公開などを利用して、お互いの授業の改善に努める。 | | |
| | | 意見交換の機会を充実させ、よりよい授業が展開できるように工夫をする。 | | |
| 学力向上及び指導方法の 工夫 | 長期休業中及び平常の課外を充実させ、学習プリントの配付や小テストの実施。 | | | |
| | 生徒一人一人の可能性を伸ばせるような指導方法の研究。 | | | |
| 17 数学科 | 基礎・基本の定着と共に 応用力の養成を図る指導 | 生徒が考えればわかる、やれば解けると思えるように、授業展開や説明方法を工夫する。 | | |
| | | 週末課題の提出を徹底させ、繰り返し復習することで、基礎・基本を全員に定着させる。 | | |
| | | 難易度別の課外授業や、個別指導により、発展的内容に挑戦しようとする生徒を育てる。 | | |
| | 学習意欲を喚起する指導 | 家庭学習における予習の習慣化と、教科書を中心とした学習の重要性を認識させる。 | | |
| | | 上位者の掲示や適切な出題難易度により、到達度テストに向けての自主的な学習を促す。 | | |
| | 個に応じた指導 | 定期テストや模擬試験に向けて各自の目標を設定させ、積極的に取り組ませる。 | | |
| 習熟度別クラス編成により、生徒の理解度に応じた授業展開や問題演習を行う。 | | | | |
| 普段の授業やテスト前などに、生徒が質問しやすい雰囲気や環境を整える。 希望者への課外授業（早朝・放課後・長期休業中等）を充実させ、また成績不振者への補習も行う。 | | | | |

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 次年度(学期)への主な課題 |
|---|----------------|---|----|---------------|
| 18 理科 | 生徒が自ら学習するような指導 | 定期テストや模擬試験に向けて目標を設定し、積極的に取り組む姿勢を育成する。 | | |
| | | 学習プリントや副教材により家庭学習における予習の習慣化を図る。 | | |
| | | シラバスを基に学習計画をつくり、生徒が自ら予習・復習できるような指導に努める。 | | |
| | 学力向上 | 実験や観察を多く取り入れ、分かる授業の工夫と展開を心がける。 | | |
| | | 担当者間で意見交換を行い、互いの授業の改善を図る。 | | |
| | | 生徒の実態に即した課題を出し、家庭学習の習慣化を図れるようにする。 | | |
| | 個に応じた指導 | 授業や定期テスト前などに、生徒が質問しやすい雰囲気や環境を整える。 | | |
| | | 小テストや学習プリントなどにより生徒の学習到達度の確認を図る。 | | |
| | | 成績不振者への補習や習熟度別指導など理解度の違いに応じた個別指導を行う。 | | |
| 希望者に対して、各種科学オリンピックへの参加を目標とした課外授業を充実させる。 | | | | |
| 19 保健体育科 | 体力の保持増進 | 授業及び体力テスト等への積極的参加姿勢を育成する。 | | |
| | | 体づくり運動、特に筋力向上プログラムの効果的な実践をする。 | | |
| | | 12分間走を充実させる。 | | |
| | 運動技能知識の理解及び修得 | 技能知識の理解をさせる。 | | |
| | | 運動技能の修得をさせる。 | | |
| | | ルールの理解をさせる。 | | |
| | スポーツマンシップの育成 | 規律ある行動を促す。 | | |
| | | あいさつを励行する。 | | |
| | | マナー、ルールを遵守させる。 | | |
| | 保健学習の充実 | 現代社会と健康の理解をさせる。 | | |
| | | 生涯を通じる健康の理解をさせる。 | | |
| | | 社会生活と健康の理解をさせる。 | | |

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 次年度(学期)への主な課題 | |
|-----------|---|--|--|---------------|--|
| 20 芸術科 | 音楽 | 芸術的表現技術の向上 | 基礎的技能を身につけ、自己の考えを練り思考する課程を重視する。 | | |
| | | | 様々な表現手段を提示し、各自の表現にあった技術を習得させる。 | | |
| | | 鑑賞教育の充実をはかる | 音楽の諸要素による変化や多様な表現に関心を持ちイメージできるようにする。 | | |
| | | 総理解と心情の育成 | 幅広く音楽文化の表現を理解し尊重する心情を育てる。 美しいものへの感動を通して自己を高める。 | | |
| | 美術 | 芸術的表現技術の向上 | 自己の考えを練り、思考する過程を重視する 様々な表現手段を示し、各自の表現に合った技術を習得させる | | |
| | | 鑑賞教育の充実をはかる | 様々な分野の鑑賞資料を提示する | | |
| | | | インターネット等を活用し、鑑賞を充実させる | | |
| | | | 国際的な文化に目を向け、理解を深める | | |
| 心の教育を目指す | 表現を通じて、自己の内面との対峙を目指す 美しいものへの感動を通して自己を高める | | | | |
| 21 英語科 | 将来につながる基礎学力の定着と個に応じた指導 | 生徒に予習→授業→復習の流れを確立させ、教科書を中心とした基礎・基本の徹底を図る。 | | | |
| | | 小テストを実施し、結果を分析し、理解不十分であった生徒への対応を行う。 | | | |
| | | 生徒のレベル毎に応じた課題の提示、進捗状況の確認、助言を行い、継続させる。 | | | |
| | 自律的な学習を身につけさせる指導の工夫 | LL教室を活用し、生徒の興味を異文化・異言語に広げる授業を行う。 | | | |
| | | IT、書籍、新聞、TVの語学講座等各種メディアを活用した生徒の自主的な英語学習を奨励する。 各種英語検定試験、ALTとの交流、教師への質問を積極的に促し生徒が自ら学ぶ姿勢を養成する。 | | | |
| | 教員間の意見交換を積極的に行う場の確保 | よりよい教授法を求めて、意見交換を行い、連絡を密にして、お互いの授業の改善を図る。 | | | |
| | | 外部の研修会へ積極的に参加し、校内での報告会を行い、情報の共有に努める。 | | | |
| | | 各学年の取組みを報告書にまとめ全体での意見交換の場を設けてよりよい方法を模索する。 | | | |

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 次年度(学期)への主な課題 |
|------------|----------------------|---|----|---------------|
| 2 2 家庭科 | 生徒の学習意欲を喚起する学習指導 | 生徒の興味・関心に答えるとともに、知的好奇心を喚起する学習内容を工夫する | | |
| | | 実験や実習を効果的に行い、体験的に学べるようにする | | |
| | | グループ活動を取り入れ、自主性や協調性を伸ばすとともに、楽しい授業の実施を工夫する | | |
| | 科学的な理解と技術の習得 | 生活を科学的にとらえる授業を展開する | | |
| | | 効果的な実習を行い、基本的な技術を習得する | | |
| | | 資料集や学習ノートを活用し、学習内容の定着を図る | | |
| | 生活の場での実践力の育成 | ホームプロジェクトを実施し、課題をみつけ改善できる実践力を身に着ける | | |
| | | 家庭クラブ活動や地域の活動などの参加を促し、学んだことを生かす態度を育てる | | |
| | | 生活者として、深い洞察とより良く生活を改善していこうとする視点を育む授業を展開する | | |
| 2 3 情報科 | IT活用及びコミュニケーション能力の育成 | 実習の中で基本的なビジネス用ソフトウェアを利用する | | |
| | | 情報の検索、加工、発信という基本的なIT活用プロセスを扱う | | |
| | | グループワークや他とのコミュニケーションを重視した実習を行う | | |
| | | 基本的な用語や概念については、試験を実施することによって定着させる | | |
| | 情報倫理の育成 | 知的財産権について、いろいろな場面で扱う | | |
| | | 情報倫理について、自分で判断できるように指導する | | |
| | | 人と人との関係性を重視した指導を行う | | |
| | 他教科や中等教育学校との連携 | 進路決定のプロセスにITを活用できるようにする | | |
| | | 学校行事とリンクした実習を取り入れる | | |
| | | 他教科や中等教育学校との連携をいろいろな場面で試みる | | |

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

| 評価項目 | 学年 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 次年度(学期)への主な課題 |
|----------------------|----------|---|--|----|---------------|
| 2.4 総合的な学習 の時間 | 1年 道徳 | 道徳の授業活動を通し、様々な道徳性を養うことを目的とする。また、計画的、発展的な指導によって道徳的価値及び人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成する。 | テーマを設定し、学年集会形式によって学年主任をはじめとして学年全体による指導を通じて道徳的価値観を身につけさせる。 | | |
| | | | HR単位において担任、副担の指導の下で道徳の授業活動を通し、様々な道徳性を養い、道徳的実践力を育成する。 | | |
| | | | 社会人による職業講話（マイフューチャーセミナー）を設定し、良き社会人を目指させる。 | | |
| | | | 校外学習等を通し、将来に生かすことのできる心を育成する。 | | |
| | 2年 | 「進路学習」 生徒自らが自分の在り方・生き方を様々な体験を通して考えることによって、自らの目標を見据えながら進路選択ができる力を育む 「平和学習」 戦争が過去の遺物ではなく、現在も起こり、多くの人々が戦禍にあっていることや国内での基地問題などを考えさせる。 | 自分が目指す学部学科について調べると同時に大学模擬講座などで自分の進路の方向性を探り、進路意識を高める。 | | |
| | | | 保護者や分野ごとの専門家を外部講師として招き、講話を聞くマイフューチャーなどの進路行事を通じて、自分の職業観を育む指導を実施する。 | | |
| | | | 大学見学会やキャンパス見学会等に参加することにより、自ら情報を収集・分析し計画を立てて行動する力を育て、併せて将来の進路について考えを深めさせる。 | | |
| | | | 志望理由書及び受験科目研究などで自分が希望する大学を決定し、その志望理由を明確に、その志望大学合格を達成するために何に取り組めばよいか、確認する。 | | |
| | 3年 | 「知を総合化し応用する」 ①自分の進路や職業について深く考えさせ、生き甲斐のある人生を実現しようとする意欲を促す。 ②興味関心を発展させた教科（科目）研究を通して、個人の知識や、思考力を鍛え上級学校に対応できるように育成する。 ③現代社会についての多面的な学習を通して、生徒に社会力をつけていく。 | 興味関心を発展させた教科（科目）研究を通して、個人の知識を伸ばしたり、思考力を鍛え上級学校に対応できるように育成する。 | | |
| | | | 外部の講師によるセンター対策講座、小論文模試や小論文講演会、対策講座等を企画することによって生徒の学力向上を図ると同時に計画的に小論文の書き方を指導する事により、生徒の進路に対する選択の幅を広げるきっかけとする。 | | |
| | | | 文化祭終了・部活動引退の時期（6月中旬）と11月特編開始の前の時期に、「高校生から受験生へ」の意識付けとしての生徒と保護者向けの進路講演会を実施すると同時に、学年集会等を活用して意識の高揚を図る。 | | |
| | | | 全員が2学年末に取り組んだ志望理由書を3年次でも指導を継続し、講演会や模試に取り組むことによってより深化させ、第一志望に対するモチベーションを高め、自分の進路に対する意識付けを明確にさせる指導を充実させる。 | | |

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない